

ほど 教育センター通信 火床の火の心を紡ぐ

第6号

平成26年3月7日
三条市小中一貫教育推進課
発行：教育センター

三条市の学校教育目標

未来を拓き、力強く生きるための「確かな学力」「豊かな心・個性」「健やかな身体」をもった三条っ子

新入生体験入学…本成寺中学校

1月30日、本成寺中学校で新入生体験入学が行われ、西鱈田小学校と月岡小学校の6年生が、授業体験（数学、英語、技術から各自が選択）、学校説明、部活動見学・体験に参加しました。これと並行して保護者への学校説明会等が行われ、授業体験を参観する時間が設定されていました。



数学 カレンダーの秘密 4月のカレンダーを提示し、数の配列で気付いたことをいくつも考えました。

新たな秘密

			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

数を選ぶとき、に等しい

新たな秘密
6年生が気付いた秘密の一つは、斜めに交差している4つの数の和が等しくなるというもの

です。「先生は思いつかなかった」と、児童が考え付いたことを称賛すると、ほめられた子はうれしそうです。



授業参観 授業後半を保護者が参観しました。熱心に考えるわが子に視線が注がれました。



学校生活紹介 生徒会役員が企画・運営を担当しました。小学校が混ざって行うレクも企画するなど、6年生をもてなそうとする気持ちを感じました。

第3回教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習開催



1月30日に第3回教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習を開催しました。

今回の参加者は国語、算数・数学の2教科で、事前作成した指導案を基に、意見交換を通してよりよい指導案の作成を目指しました。

参加者の感想 小中で同じ単元について話し合いながら構想を組み立てる活動があると、参加者同士のやり取りから互いの校種の視点が感じられると思います。

「小中一貫教育シンポジウム 兼第2回小中一貫教育マネジメント研修」を開催

2月20日燕三条地場産業振興センター・リサーチコアを会場に、小中一貫教育シンポジウム兼第2回小中一貫教育マネジメント研修を開催しました。市内小中学校教職員、中学校区推進協議会委員、他市の教育関係者など、約140人が出席し、呉市長谷川教育長による基調講演、パネルディスカッションから、今後の三条市の小中一貫教育の発展を模索するひとときとなりました。



基調講演「小中一貫教育の今後～呉市の小中一貫教育から見てきたもの～」

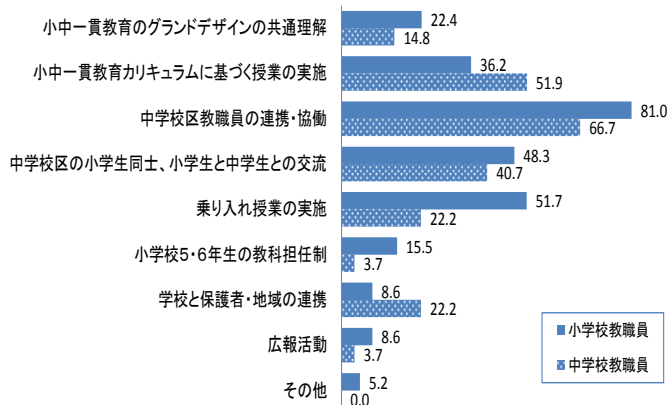
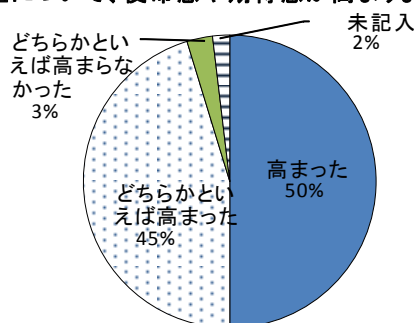
実態調査を基に中学生の自尊感情を持たせることを痛感し、小中一貫教育を施行。小中交流で中学生の目が柔和になったとの導入当時の状況を紹介。いろいろな面で成果が上がっていることを、データに基づいて紹介しました。



パネルディスカッション（左から雲尾新潟大准教授、長谷川呉市教育長、滝沢十日町市小中一貫推進係長、田村田上町教委指導主事、國定三条市長、駒沢第三中校長）

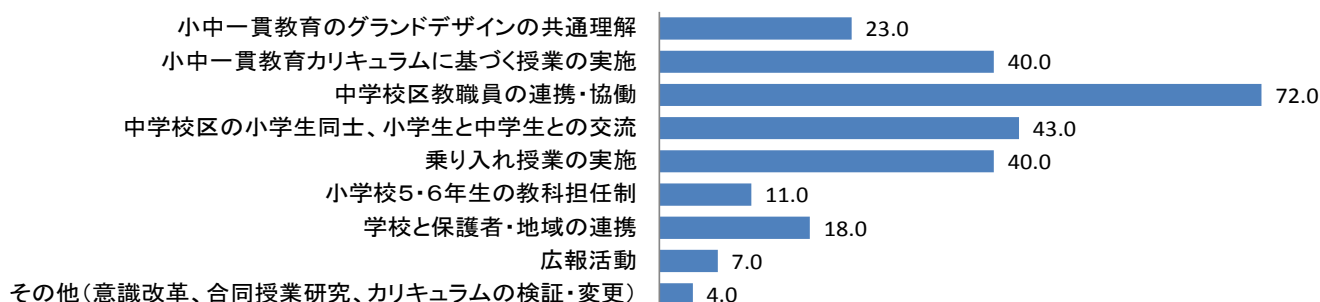
パネリストが、それぞれに小中一貫教育に期待している効果（夢）や、夢を実現するための現在の課題や今後の課題について、現状の紹介を交えて、教育にかける思いを語りました。

基調講演やシンポジウムを通じて、小中一貫教育の取組について、使命感や期待感が高まりましたか



*下のグラフを小中学校教職員別に表示したのが右上のグラフです。小中教職員の認識の差がうかがえる結果となっています。

基調講演やシンポジウムを通じて、小中一貫教育の取組の中で、今後さらに自中学校区において力を入れていきたいと思ったことは何ですか（3つ選択、市内集計、100人）



【アンケートの自由記述から】

基調講演について

- 呉市長谷川教育長さんのお話がとてもためになった。自分たちが取り組んでいることを点検、評価、改善すべき有用な視点を多くいただいた。
- 呉市の取組と三条市の取組がほぼ同じであることがわかった。では、その成果も同じなのだろうか？授業づくりの面で、今以上に小中連携ができるといいなあと思った。

パネルディスカッションについて

- 他市町村の方向性と三条市の方針を聞き比べることで、三条市の目指す方向が、今までよりも明確になった。
- パネルディスカッションで幼小中一貫教育にかけるパネラーの皆さんの熱い思いが伝わりました。キャリア教育は小中一貫教育の大きな柱になると再認識した。

全体を通して

- 小中一貫教育を全面実施して課題と思うことが明確になってきました。前もってそれを把握し、それに対する返答を研修会の中で行ってほしい。
- 小中一貫教育の推進には、あらためてソフト・ハード両面の充実が欠かせないことを再認識しました。自分の意を改める（見直す）きっかけにもなりました。
- 明解な小中一貫教育の根幹を認識できた。実践するにあたっての方向性についても、明らかになったと思う。期待が高まったと思う。
- 他の教職員にも聞かせてあげられるような方法があるとよい。意欲の少ない教員の意識向上にもつながるのではないか。パネリストの話や講演の内容が、自分の実感とよく合っていて納得できるものであった。

教育センター主催の研修概要報告から

小中一貫教育基礎研修会	第1回(5/8)	第2回(8/5)	第3回(12/25)
対象：転入・新任教職員 参加者 第1回 126人 第2回 86人 第3回 88人	主として第三中学校区(モデル校区)の実践例をとおして、小中一貫教育の導入に関する理解を深める。	小中一貫教育カリキュラムのよさ、「交流学习」等の小中一貫教育の特色について理解を深める。	小中一貫教育を推進するための組織、中学校区小中一貫教育グランドデザインについて理解を深める。

担当者のまとめ 初めての研修会でしたが、概ね好意的な評価（肯定的評価が 95%）が得られました。第3回は「中学校区小中一貫教育グランドデザイン」の概要を冬季休業中に実施しましたが、時期を早めた方がよいという意見が多かったので、次年度は2回シリーズで年度当初と夏季休業中に実施し、また、代表推進リーダーからの実践報告が好評だったので次年度も継続します。

受講者の感想から

- 第1回 小中一貫教育はただ交流するのが目的ではないことがよく分かった。お互いの文化の違いを埋めるために、イベントなどでかかわることを通して、お互いの良さを認め合えるような教育活動を計画し、中学校区の先生方と協力していきたい。
- 第2回 今回はカリキュラムを実際に実践していく上での工夫や課題の改善のための取組等を具体的に説明していただき大変参考になった。小中一貫教育カリキュラム実践上の課題とその改善策をもう少し学びたい。
- 第3回 各中学校区の取組について報告を聞くことができ参考になった。転入・新任職員でなくても聞くことができれば計画を改善する視点が見つけられるように感じます。転入・新任者は年度の早い時期にあった方が理解を深め取り組めると思います。年度の終わり頃は取組を多くの職員が聞けるようになれば良いと思います。



教科カリキュラムの活用、 授業づくり講座・演習	第 1 回(8/26)	第 2 回(10/24)	第 3 回(1/30)
対象：中期(小5・小6・中1)学級担任または教科担任等 参加者 第 1 回 29 人 第 2 回 29 人 第 3 回 23 人	各中学校区の「指導の構想」を、今年度の児童生徒の実態から見直し、「目指す子どもの姿」と「重点指導内容」を決める。	各中学校区の教科カリキュラムの該当単元を、実態から見直し、「既習内容の確認」、「発展的な内容」、「系統的な学習内容の積み上げ」を決める。	演習を通じて、各教科カリキュラムを活用した指導案づくりを行い、指導内容の明確化と系統化、教科書における学習の系統性を理解する。

担当者のまとめ 各中学校区で作成したカリキュラムを形骸化せず、具体的な指導案に降ろしていく作業を 3 回シリーズで行いました。概ね好意的な評価を得ました。初年度で、国語、算数・数学、外国語活動・英語の 3 教科の実施でしたので、来年度は教科数の拡大を図るとともに、9 月までに実施して各校の研修に生かせるようにしたいと考えています。

受講者の感想から

- 第 1 回 他中学校区の「指導の構想」を目にすることができ、とても有意義だった。
 第 2 回 学区の先生と話し合うことで、具体的にどこがつながっているのか、小学校でポイントを置いて指導することが分かった。次回も同じメンバーで指導案をつくとよいと思いました。
 第 3 回 3 回シリーズで、3 回目に完全な指導案でなく小中一貫教育の特色が出やすい「単位について」「私の主張」「指導計画」に絞って演習をするやり方はとっても良い。ぜひ次年度もやってほしい。レポート持参、講義調だけでないのが良い。

特別支援教育授業づくり研修	第 1 回(8/20)	第 2 回(10/23)
参加者 第 1 回特支学級担当者 34 人 第 2 回希望者 28 人	特別支援学級小・中学部における教科等を合わせた指導、自立活動の授業づくり	授業のユニバーサルデザイン化の観点に基づく通常学級における授業づくり

担当者のまとめ 特別支援に関する授業づくりのニーズが高く、研修会の肯定的評価も高いので、支援学校教諭による研修や、外部機関とも連携したより専門的な研修を計画したい。



受講者の感想から

- 第 1 回 小中一貫教育モデルカリキュラム特別支援教育編を活用し、個々の指導に生かしてもらうよう一緒に考えていきたいと思う。
 第 2 回 授業の中でどの子どもも課題が分かり、学習活動に参加させる手立てをたくさん知ることができました。視覚化、共有化、多様な活動など手立ても具体的であり、キーワードをたくさん学びました。

リレー随想

born with a silver spoon

教育センター指導主事 丸山 巧



先日、ある記事で serendipity（セレンディピティ）という英単語を目にしました。読み進めてもその意味をつかむことができません。英和辞典には、「掘り出し物をみつける才能」とあり、英英辞典には、the natural ability to make interesting or valuable discoveries by accident と書かれています。日本語なら、「偶然に興味深い、価値のある発見をする生来の能力」とでも考えればいいのでしょうか。当てはまる日本語が見あたらない言葉です。

私が読んでいたのは、iPS 細胞に関する記事です。この発見は「偶然」の一言では片付けられません。不断の努力の結果であることは明らかです。他では、serendipity を「偶然または聡明さによって、予期しない幸運に出会う能力」と解釈しています。

さて、三条市で小中一貫教育が全面実施された今年、私たちが三条市で勤務しているのは、まさに serendipity ではないのでしょうか。チャンスは準備をしている人の下に訪れるのです。